



平成 25 年 11 月 13 日

港湾局産業港湾課

第 14 回北東アジア港湾局長会議ならびに 第 14 回北東アジア港湾シンポジウムの開催結果について

平成 25 年 11 月 9 日(土)～11 月 11 日(月)の間、第 14 回北東アジア港湾局長会議および第 14 回北東アジア港湾シンポジウムが韓国蔚山広域市で開催されました。

1. 第 14 回北東アジア港湾局長会議

ボーダレス化する世界経済において、国際物流は重要なテーマとなっており、特に世界の工場といわれている東アジア地域が世界の物流を牽引するまでになっています。その中心となる日中韓の港湾局長等が一同に集まり、第 14 回北東アジア港湾局長会議が韓国蔚山広域市で開催されました。会議では、まず各国の代表から三カ国の港湾行政に関する報告があり、活発な意見交換が行われました。さらに、作業部会では「北東アジアにおけるシャーシの相互通行の促進」、「北東アジアにおけるマリーナネットワークの構築」、「北東アジアの海上コンテナ輸送における R F I D 活用の促進」の三つのテーマについて報告が行われました。また、日本と韓国で行う共同研究として「沿岸環境の変化と対策の効果」を採択し、「北東アジアにおけるクルーズ振興」について、共同研究テーマとして議論することが決定されました。

次回の第 15 回北東アジア港湾局長会議は中国側からの提案で平成 26 年に南京での開催の提案があり、了承されました。

なお、北東アジア港湾局長会議は、1995 年から 1999 年の間、年 1 回開催された日韓港湾局長会議をベースに、2000 年より中国が加わり拡大したもので、今回で 14 回目の開催となります。

2. 第 14 回北東アジア港湾シンポジウム

局長会議翌日の 11 月 11 日には、第 14 回北東アジア港湾シンポジウムが開催されました。日中韓の官民の港湾関係者約 150 名が集まり、「港湾に関する物流ネットワーク及び情報ネットワークの促進」をテーマに三カ国の研究者から発表があり、その後発表者と参加者による熱心な質疑がなされました。さらに、蔚山港湾公社から蔚山港の紹介がありました。

【問い合わせ先】国土交通省港湾局産業港湾課国際企画室 中川、大山

(代表)03-5253-8111 (直通)03-5253-8679 (内線)46464、46463 (FAX)03-5253-1651

第 14 回北東アジア港湾局長会議

(11 月 9 日 (土)、10 日 (日) 韓国・蔚山広域市、ロッテホテル蔚山)

出席者

- 日本 (国土交通省港湾局長 山縣 宣彦をはじめ 6 名)
- 韓国 (海洋水産部港湾局長 朴 煥權をはじめ 13 名)
- 中国 (交通運輸部水运局副局长 楊 華雄をはじめ 6 名)

主要議事

(ア) 日韓中の 3 国間での最近の港湾行政に関する情報交換

発表者：

日本) 国土交通省大臣官房技術参事官 (港湾) 大脇 崇

- ・ 港湾における地震・津波対策
- ・ クルーズの促進
- ・ 国際港湾協会 (IAPH) 「港湾環境賞金賞」受賞 (博多港)

韓国) 国土交通海洋水産部港湾政策課長 李 哲朝

- ・ 最近の港湾の開発状況
- ・ 複合一貫輸送による物流の効率化 等

中国) 交通運輸部水运局副局长 楊 華雄

- ・ 主要港湾の開発状況
- ・ 港湾の安全政策・環境政策

(イ) 共同研究の報告

以下の 3 つのテーマについて、各国より、進捗状況や現状報告を行い、意見交換を実施した。

- ・ 北東アジアにおけるシャーシ相互通行の促進 (日本提案)
- ・ 北東アジアにおけるマリーナネットワークの構築 (韓国提案)
- ・ 北東アジアの海上コンテナ輸送における R F I D 活用の促進 (中国提案)

(ウ) 新規検討テーマの検討

韓国側から、韓国海洋科学技術院 (KIOST) 及び日本の港湾空港技術研究所 (PARI) との間で行われる「沿岸環境の変化と対策の効果」に関する共同研究について提案がなされ、了承されました。また、「北東アジアにおけるクルーズ振興」を次の共同研究テーマとして議論することが決定されました。

(エ) 第 15 回北東アジア港湾局長会議

中国側から、平成 26 年に南京で開催する旨、提案があり、基本合意されました。詳細日時等については次の課長級会合で議論される予定です。

議事録署名

上記内容について3国間で署名しました。

今後の予定

来年、第15回北東アジア港湾局長会議を中国で、課長級会議を日本で開催する予定です。

第 14 回北東アジア港湾シンポジウム

(11 月 11 日 (月) 韓国・蔚山市、ロッテホテル蔚山)

参加者

日中韓の官民の港湾関係者合わせて約 150 名 (日本側 約 40 名、中国側 約 20 名、韓国側 約 90 名)

プレゼンテーション

○第 1 部「港湾物流ネットワークの促進」

- ・事例発表 1 中国：中国交通运输部科学研究院教授 东 朝暉 氏
「港湾物流ハブの特徴と機能」
- ・事例発表 2 日本：国際臨海開発研究センター (OCDI) 研究主幹 柴崎 隆一 氏
「東アジアとヨーロッパ間における国際海運」
- ・事例発表 3 韓国：韓国海洋水産開発院港湾研究本部専門研究員 金 槿攝 氏
「北東アジアにおける物流ネットワークの促進」

○第 2 部「港湾情報ネットワークの促進」

- ・事例発表 4 中国：中国交通运输部水运科学研究院主任技術員 倪 鵬 氏
「中国での物流の近代化と交通の高度化」
- ・事例発表 5 日本：野村総合研究所上席コンサルタント 石井 伸一 氏
「港湾物流の効率化に資する情報共有のプラットフォーム基
準の開発」
- ・事例発表 6 韓国：韓国海洋水産開発院海運政策・安全課長 金 秀鏞氏
「北東アジアにおける港湾物流ネットワークの促進」

○「蔚山港の紹介」：蔚山港湾公社



第14回北東アジア港湾局長会議(11月9日、10日開催)
(左から、中国楊水運局副局長、韓国朴港湾局長、日本山縣港湾局長)



第14回北東アジア港湾シンポジウム(11月11日開催)